



鵜鮎つうしん

岐阜ダルクニュースレター平成30年冬号(68号)

女性の居場所



施設長 遠山香

去る11月23日に開催した岐阜ダルク女性ハウス設立5周年フォーラムですが、会場には200名程の参加者にお集まりいただき、盛況のうちに終えることができました。

フォーラムの案内をスタッフ3人で一生懸命配布した甲斐あって、初めて来られた方がたくさんいることがアンケート結果に出ており、とてもうれしく思いました。

加えて多くの支援者や関係機関の方々、他県のダルクの仲間達も5周年を一緒に祝ってくれたことは大きな喜びです。ありがとうございました。

フォーラム前日に女性ハウスを飛び出した仲間がいました。プログラムの中で行った演劇「もうひとりじゃない～仲間とともに～」の一幕にあったように、「ダルクに戻りなさい。」と、ご両親は本人を家の中には決して入れませんでした。

仲間は女性ハウスに帰ってきました。ご両親が並々ならぬ思いで愛を持って突き放したことが功を奏したのだと思いきや、1週間後に仲間は着の身着のまま飛び出したまま今戻ってきません。薬の欲求がひどかったため、再使用に至ったことも考えられます。

ご両親の気持ちは察するに余りありますが、回復に必要なプロセスのひとつではないかと思えます。今は、仲間の回復をハイパーパワーに祈ることしかできません。

さて、男性の入所施設が多い中、女性の入所施設を備えている岐阜ダルクの役割は大きく、女性の薬物相談が増えています。現在女性ハウスは6名しか入所できないため、女性の居場所を増やす予定です。今後、女性ハウス増設に向けて、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いたします。

今年1年、岐阜ダルクを支えて下さった皆様に深く感謝申し上げます。

仲間の体験談

ぼんきち

私は、マリファナ、コカイン、覚せい剤に手を出してきました。特に覚せい剤を使い始めた時は他の薬がばかばかしく思い、どんどん覚せい剤を使うようになりました。元は、おしゃれが大好きでアパレル店員もやっていました。でも周りは細い人ばかり。ダイエットを始めても長続きしない自分に苛立って、覚せい剤は楽して痩せれるって思って使い始めました。みるみる痩せていく自分にすごく自信が持てた。

でも、気付いたらコントロールが出来なくなり、薬を手に入れるため家族、友達、恋人などお金を騙し取ったり、仕事も変えたり、薬中心の生活になっていきました。幻聴が出始め包丁を持って道路に飛び出したり周りを脅したりと本当にボロボロでした。車の中で「どうしてやめられないの?」「もう何でよ!!」って大声で毎日毎日泣き叫んでいました。そんなある日、薬が家族に見つかり「もうどうしようもない」って時に、施設に繋がりました。

私は入所する前日まで薬を使っていました。いくらどんなに家族が力を出しても止める事が出来なかったけど、ここにきて本当に頑張っています。3日目で逃げ出した時、「本当にいいのか?」って思いすぐに施設に戻ってきました。もうすぐで2カ月がたちます。正直毎日が嫌です。ため息も増えています。でも、仲間の話が今の自分に共感できることばかりで本当に助けられています。

今、私は20歳で、一番楽しい時期に何でもしんどいプログラムやってるの?って思う時もあります。でも今がチャンス。もう薬におぼれたくない。そして何年後かにパートナーを見つけて幸せな家庭を作って大好きな家族にかわいい孫を見せてあげたいと思っています。一日一日全力でこれからも回復のために頑張っていきます!!

薬物依存症のまさひろです。

僕は、就労プログラムを与えられてアルバイトに行っています。

就労に行き出して、シフトが合わないため、2年間で3回アルバイトを変えました。

最初にラーメン屋さんのアルバイトをしました。シラフで働く初めてのアルバイトでした。ラーメン屋さんでは、一緒に働く人とコミュニケーションが取りたくても取り方が分からず、ダルクのスタッフに相談もせず、ただひたすらどんぶりを洗ったり人と会話することもなく働きました。シフトにあまり入れなかったのがダルクのスタッフと相談して、ラーメン屋さんを辞めて次のアルバイトを探すことになりました。次はどんな職種にしたらいいか施設長に聞くと、ファミレスのホールという自分的には絶対いやだと思う職種の提案がでました。僕はそういう仕事の人は自分とは生きている次元が違う人だと見下していました。嫌なことをやる。と自分に言い聞かせながら面接に行きました。自分は薬物依存症で、今ダルクという依存症のリハビリ施設に入寮している事、夜は自助グループに行っているので残業はできない事などを話した上で採用してくれました。実際、働き出すと自分の問題がいっぱいでした。パートの人と会話ができない…。お客さんに怒られるんじゃないかという妄想が入って怖い…。もう行きたくない…。という事をミーティングで話をし、スタッフに相談して、毎朝、祈りながら行きました。僕の問題は人とコミュニケーションを取らない事だと気付いて、パートの人と会話をしてみたり、お客さんと会話をしてみたりしながら続けました。続けた結果、パートの人やお客さんとはギクシャクしながらも世間話をしたりするようになりました。ダルクで仲間と会話の練習をしてきたおかげだと思います。ファミレスでもシフトを増やすという事が難しく、辞めることになりました。辞めることをお客さんに言うと、次の日にがんばってと手紙付の靴下をもらいました。嬉しかったです。

今は、糸を染める染色工場の仕事を与えられました。やりがいて何?と思っていた僕が、やりがいてこういう事かもしれないと思える仕事を与えられました。今はすごく楽しく仕事をさせてもらっています。

ありがとうございました。



「病院からダルクへ・・・回復に向かって」

各務原病院
精神保健福祉士
澤木幾佐



各務原病院は依存症の専門病院です。一日で100人以上の患者さんが外来受診にみえます。入院病床数は156床。365日、ほぼ満床状態です。各務原という人口14万人の中都市では比較的規模の大きな専門病院であ

ると考えられます。病院のなかには様々なプログラムがあり、ダルクさんをお願いして週に一度は回復者に病院に来てもらっています。病院のなかにアローズというダルクを模倣したグループがあり、施設での生活をイメージ出来るように毎日ミーティングして、中間施設のメンバーに入院中から関わってもらおうということをしています。女性クローズドミーティングも有り、週に2回開催しています。

依存症者は病気が悪化して辛くなると、入院はしたがるけれど、リハビリをするという気持ちになるひとは少ないです。だからこそ、中間施設のひとに関わってもらい、リハビリのイメージを持つ必要があります。ダルクのイメージを誤解しているひともいて、実際、関わってもらおうと、回復に対する考え方や行動の変容につながっていきます。病院の患者さんとダルクの入寮者ではやっていることも相当相違があり、バイタリティー、覇気も違うように感じられます。

病院から中間施設への流れとして、まず入院解毒治療が終わった時点で、主治医の指導のもと、本人の希望を聞きます。希望者には個別で教育を入れ、家族など共依存症者との分離を行い、毎日のアローズのミーティングに参加してもらい、中間施設の利用者と関わりを持ちます。夜間も外部の自助グループのミーティングに行きます。そこでも、ダルクのメンバーと関わりを持てることとなります。家族は月に2度少年鑑別所で行う家族会ステップで教育を入れます。専門家として、依存症の教育は本人だけでなく、家族や支援者にも行う必要があると考えています。その後に必要な社会資源を整えていきます。最初から社会資源を整えてしまうと、リハビリに対するやる気をなくし、回復に向かわなくなるひが大勢いました。回復は、ある程度不安な気持ちを持ちながら、開始する必要も有るかも知れません。

ダルクのメンバーに多くを助けてもらい、感謝をしています。今後もダルクのメンバーと関わりを持ってもらい、ひとりでも多くの依存症者が回復に向かって行くことを願ってやみません。

10月

- 6 薬物電話相談日
- 7 カトリック高森寺教会にて活動紹介
- 8 日本キリスト教団名古屋北教会にて活動紹介
- 10 岐阜市によるStop houseの実地指導
- 薬物電話相談日、パソコン教室
- 11 保護観察所個別家族教室
- 岐阜ダルグ後援会議
- 12 岐阜DMCティカフェれんげ
- 13 薬物電話相談日
- 14 カトリック善徳教会にて活動紹介
- 岐阜純福音教会にて活動紹介
- 岐阜ダルグ家族会
- 16 ケア会議(各務原病院)
- 17 レクリエーション(食べ放題・岐阜市総合体育館)
- 20 フラワーセラピー、薬物電話相談日
- 21 カトリック岐阜教会バザー手伝い
- 21~23 JCCA
- 24 笠松刑務所薬物離脱指導
- 25 保護観察所個別家族教室、ヨーガ
- 26 岐阜県再犯防止推進計画策定委員会
陶芸教室
- 27 チャペルコンサート、薬物電話相談日
- 28 カトリック一宮教会バザー出店
インマヌエル岐阜キリスト教会にて活動紹介
ピースアクションバザー出店、岐阜ダルグ家族会

11月

- 2 医療観察制度に関わる勉強会
- 3 薬物電話相談日
- 4 大垣サンライズチャペルにて活動紹介
- 6 名古屋学院 名古屋中学校・高等学校講演
- 8 名古屋学院 名古屋中学校・高等学校講演
- 保護観察所個別家族教室、ヨーガ
- 9 可児市立西可児中学校講演
- 10 山梨ダルグ10周年フォーラム参加
まるかんフリーマーケット出店、薬物電話相談日
- 11 いびがわマラソン出場、岐阜ダルグ家族会
カトリック安城教会にて活動紹介
- 14 各務原病院メッセージ
- 15 刑務所出所者等に対する地域支援連絡会議
- 岐阜県医療観察制度運営連絡協議会、薬物電話相談日
- 依存症に関する家族教室講話
- 17 フラワーセラピー、薬物電話相談日
- 18 カトリック東山教会にて活動紹介
- 21 笠松刑務所薬物離脱指導
ヨーガ
- 22 岐阜ダルグ女性ハウス設立5周年フォーラム
- 23 びわこダルグフォーラム、薬物電話相談日
- 24 春日井福音キリスト教会にて活動紹介
- 25 アガベチャペル上土岐チャペルにて活動紹介
- 岐阜ダルグ家族会
- 28 笠松刑務所薬物離脱指導
- 29 岐阜ダルグ後援会議 30 陶芸教室

12月

- 1 香川ダルグフォーラム参加
- 薬物電話相談日
- 2 岐阜聖パウロ教会にて活動紹介
- 5 南山高校男子部講演
- 7 笠松刑務所薬物離脱指導
- 8 薬物電話相談日
- 9 岐阜ダルグ家族会
- 11 ニューズレター発送作業



わおーん

10/28 ピースアクションバザー出店



焼きそば
いかがですか？

●ダルグの事を知らないお客様に、陶芸作品を通して私達の活動を伝えることが出来ました。もっともっと色々な作品を作って色々な人達と、これからもっと関わりがもてたらいいなと思いました(あやか)

10/21 カトリック岐阜教会バザー手伝い



●毎年バザーに参加させていただいて、今年も、焼きそばを、教会の方と仲間と一緒に焼きました。焼きそばの腕が上がってます。(まさひろ)

10/27 岐阜ダルグ チャペルコンサート in カトリック多治見教会

チケットの売り上げと会場での献金合わせて128,050円になりました。ご支援いただきありがとうございました。



●フラワーセラピーの先生が作ってくれた花束を演奏会の最後にお渡ししました。

岐阜ダルグ女性ハウス設立5周年フォーラム ～自分を受け入れる～



11/23 岐阜ダルグ 女性ハウス設立5周年フォーラム
in じゅうろくプラザ

11/9 可児市立西可児中学校講演



●本当に大勢の生徒さんに、薬を使うことの苦さが伝わり、これからは少しでも役に立ったとしたら悲惨な経験をした僕達も救われる様に感じます。(タロー)

11/11 いびがわマラソン出場



42.195キロ皆で完走しました！

●入所時96kg。心身ともにマラソンなんてあり得なかった自分が、フルマラソンを楽しんで走り切れる理想だった自分になりました(でいちゃん)

《山野先生の話についての感想》

- ・回復者の方へのまなざしのやさしさが感じられました。
- ・自分にできる役割について、考えさせられました。
- ・依存症に関してとても丁寧に説明されて分かりやすかったです。
- ・基本的な事を丁寧に社会に伝えていく必要があるのだと改めて感じました。

《座談会についての感想》

- ・世間の対人援助職の多勢よりずっと勉強されていると思いました。タブーなくすべてオープンに語られているところ、尊敬したいと思いました。
- ・依存症における性差の部分の難しさ、女性の依存症のサポートをどうすべきかについて考えさせられる機会となりました。女性の回復モデルとして、岐阜ダルグのスタッフの方々にはこれからも生き生きとあり続けてほしいと思いました。
- ・女性の回復施設がもっと増えるといいなと思いました。
- ・男性スタッフの苦勞を理解することができました。

《演劇についての感想》

- ・最初の苦しい時期から立ち直って自分を取り戻していく過程が感動的に伝わった。
- ・薬物のことを知らなくても胸に響いた。
- ・ダルグのプログラムの意味が少しわかった気がします。渾身の演技と歌声に涙が出ました。

- ・仲間達で作りが上げられたことに感心致しました。
- ・リアリティーがあり感動して涙が出ました。
- ・心をうたれる劇でした。・本物の役者さんみたいでした。
- ・薬物依存症の大変さがよくわかった。

会場で募金を募ったところ144,602円浄財が集まりました。大切にに使わせていただきます。

とても思い出に残るフォーラムでした。感謝！



後援会だより

岐阜ダルク後援会
会長 齋藤幸二



11月24日土曜日に、家内は7歳と5歳の孫をイオンタウン大垣(旧「ロクシティー」)にある温泉に連れてゆきました。家内の話によると、みんなで女湯の脱衣場に入ったとき、ひとりの年輩の婦人が「坊やたち可愛いね」と言って近づいてきたそうです。話をしているうちに上の孫が「入れ墨の方の入浴お断り!」と書かれている張り紙を見つけて、「どうして入れ墨の人はダメなの?」と尋ねました。するとそれまでにこやかに話していたその女性は急に険しい顔になって「入れ墨をしている人は悪い人たちだから!」と言ったそうです。孫は、「でも、入れ墨をしてもいいお姉ちゃんもいるよ」とこたえたそうです。孫たちは、教会に来て奉仕をしてくれたり、一緒に食事をしたりしているダルクの人たちに、そしてその中にいる、腕などに入れ墨をしている「お姉ちゃん」たちにとっても可愛がってもらっているのです。

その婦人は不機嫌そうに、「悪い人に決まっているんだから」とぶつぶつ言いながら向こうに行ってしまったそうです。

その話を聞いて、孫の言葉をうれしく思ったのと同時に、私たちはどれほど偏見や先入観に動かされやすいかということも考えさせられました。



セカンドハウス (仮称) 開設へのお願い

女性ハウス
責任者 勇 陽子



皆様の支えがあり、今年で女性ハウスを開設して5年を迎えることができました。

先日、11月23日岐阜市のじゅうろくプラザで「岐阜ダルク女性ハウス設立5周年フォーラム」を無事に終えることができました。お忙しい中、沢山の方に足を運んでいただき無事に開催いたしました。ありがとうございました。

早速ですが皆様にお願ひがあります。5年経過する中で、プログラムが進んで就労プログラムへ進む仲間、状況によってプログラムの途中でも就労に移る仲間がいます。

初めはハウスに入寮しながらアルバイトへ行きますが、本人の状態を見て落ち着いているようでしたら部屋を借りて一人暮らしを始めてもらいます。一人暮らしをしながらアルバイトへ行き、バイトが終わったらダルクのデイケアへ来て、仲間と一緒に自助グループのミーティングへ行きます。

しかし、一人暮らしを始めると徐々に自分の自我が出てきて、「これくらいいいだろう…。明日にすればいいだろう…。別に誰にも迷惑はかけていないから」などというような気持ちに引っ張られていき、あつという間にダルクで身に付けていた生活習慣、食生活など乱れていってしまう仲間も少なくはありません。仲間の中だったから出来ていたということだったので、一度生活が乱れてしまったと分かってもそれを整えていくことは大変なことです。本人とスタッフを交えて話し合いをしたり、部屋を突然訪ねたりと対応してみましたが、難しいと実感しました。ダルクのリハビリではあまり問題が見えてこなかったことが、一人暮らしになったことによって見えてきたのです。

そこでこうした仲間をサポートするにはどうしたらよいかスタッフ間で色々話し合いをした結果、スタッフが常駐している24時間入寮施設ではありませんが、必要に応じて本人の相談を受けながらサポートをし、社会で一人暮らしをする前段階の準備入所施設「セカンドハウス (仮称)」を立ち上げることにいたしました。

そのセカンドハウス (仮称) でたとえ状態が悪くなったとしてもすぐに仲間の中で自分の問題に向き合いリハビリをやり直すことが可能になります。

現在、入寮している女性の仲間が4名います。みんな、自分の問題に毎日向き合いながら少しずつ回復に向かっていきます。いずれダルクを退寮していきます。社会に戻る前に素面で一人暮らしをすることも練習が必要だといろいろな仲間の姿を見て思います。

どうか心苦しいお願ひではありますが、セカンドハウス (仮称) を運営する為の資金が必要です。継続して施設を運営していくには今の女性ハウスの収入では難しいことです。

セカンドハウス (仮称) の運営資金へのご協力をお願いいたします。

ご支援・ご協力をいただき心から御礼申し上げます

献金者名(平成30年9月22日～11月26日) 敬称略

塚本恵一 岡田千歳 田口大輔 大竹幸子 不破達生 北谷雅春 永嶋恵美 藤本弘 木下容子 鎌田憲子
三輪正人 堀尾佳広 村松みよ子 樹の会 木村薫子 岐阜市更生保護女性会 武内榮子 橋爪タツ子 伊藤
潤子 岐阜キリスト教会 岐阜県更生保護事業協会・理事長・高橋征利 岐阜県保護司会連合会 伊藤皓吉 伊
佐地全嗣 加藤洋子 市岡多賀賜 中西東峰 勇昭代 粕谷靖彦 有限会社ユーアイシー・鶴飼武彦 岐阜山
県保護区保護司会・会長・岩田輝雄 小田泉 齊藤栄子 河合潔 もとす広域更生保護サポートセンター・会
長・大西徳三郎 戸田あつ子 弁護士・寺本和佳子 弁護士・伊藤知恵子 有安祥子 国際ソロプチミスト・
かがみ野 堀田信夫 藤本正夫 橋本博 武藤晏子 青井初恵 堀尾佳広 伊藤直美 日本キリスト改革派太
田教会 角平聖一 渡辺真帆 小島良徹 カトリック岐阜教会 カトリック一宮教会バザー実行委員会 加茂
保護区保護司会 山本亮 小島浩一 各務原地区更生保護女性会・西村比呂子 國澤玲子 太田綾子 小林
光・英子 カトリック善棚教会・相馬津由美 関井昌子 援助修道会・名古屋修道院 岩田恭子 カトリック
高蔵寺教会の皆様 カトリック善棚教会の皆様 インマヌエル岐阜キリスト教会の皆様 日本キリスト教団名
古屋北教会の皆様 大垣サンライズチャペルの皆様 カトリック安城教会の皆様 カトリック東山教会の皆様
澤田透 鳴瀬信一 林友香 加藤信 光楽英生 海津保護区保護司会木村暢男(薫子) 笠原聡太郎 吉田和郎
秋田明子 武芸川町仏教会 岐阜純福音教会 春日井福音キリスト教会の皆様 アガペチャーチス岐チャペ
ルの皆様 匿名者多数(総額831,100円のご寄付をいただきました。ありがとうございました)

献品者名(平成30年9月22日～11月26日) 敬称略

けんいち 柳原清盛 青井初恵 鎌倉容子 大垣サンライズチャペル 木下容子 近藤享子 岐阜バプテスト
教会 澤田透 有安祥子 びわこダルク 香川ダルク 東近江ダルク 宮田ちよこ 匿名者多数

※お名前記載につきましては注意を払っておりますが、万が一お名前誤字・脱字または記載漏れなどございましたら、
誠に申し訳ありませんが、ダルクまでご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

※発送作業簡略化のため皆様全員に振込用紙を同封させていただいておりますことをご了承下さい。また匿名希望の方は、
恐れいりますが、その旨を振り込み用紙通信欄にその都度ご記入下さいようお願い致します。

～セカンドハウス開設のためのお願い～

ダンス、ダイニングテーブル・椅子セット、本棚、ライティングデスク・椅子、シングルベッド(マットはきれいなもの)、2人掛けソファを譲ってください。(あまりにも古いものは、ご遠慮いたします。)
電話:058-201-3555 までご連絡下さいますようお願いいたします。

岐阜ダルク 郵便振替口座 00840-5-167752 岐阜ダルク後援会

編集 特定非営利活動法人 岐阜ダルク
編集担当 岐阜ダルク後援会 齋藤幸二 鈴木輝一郎
〒500-8175 岐阜市長住町7-3 TEL:058-201-3555
Email:gifudarc2004@yahoo.co.jp
ホームページ: <http://www.gifu-darc.org>
ダルク日記『今日もぐるぐる』: <http://darcblog.sblo.jp/>
2018年 岐阜ダルクニュースレター平成30年冬号 (No.68)
定価 1部 200円
編集責任者 遠山 香
発行所 東海身体障害者団体定期刊行物協会
名古屋市中区丸の内3-6-43 みこころセンター

